広報
はつかいち
No.1178
9
September 2013

特集
「幸（こう）」齢者になろう―
―特集2～7ページ―

宮島踊り
毎年、８月17日・18日の両日、嚴島神社参道途中の御笠の浜で催された宮島踊りの夕べ。編み笠をかぶり面体を隠し、黒紋付きを着用して踊るのが正装だが、現在では服装は自由。足は３歩進み１歩戻る、手は左右交互に上下させて踊る。戦国時代、伊予の国の海賊が、宮島で悪行三昧をした帰りに嵐で船が沈没した。その後、船舶が相次いで災難に見舞われ、海賊の亡霊の仕業とされた。その霊の供養のため、念仏踊りをしたのが起源とされている。平成19年２月、市の無形民俗文化財に指定。